



安里 周作 議員

水産業の拠点産地品目について

質 拠点産地品目の意義について伺う。

答 農林水産課長（平安名 盛常）

拠点産地品目に認定されることは「地域経済の活性化」や「おきなわブランドの確立」に寄与するなど重要な意義を持つと考えています。県では組織力を持ち「定時・定量・定品質」の出荷原則に基づく安定的な出荷ができる産地を拠点産地として認定しています。

質 拠点産地品目認定時の生産目標とその後の生産量の推移を伺う。

答 農林水産課長（平安名 盛常）

海ぶどうの生産目標が100トン。推移は、平成20年が48トン、平成25年が43トン、平成30年が32トン、令和5年が22トンです。モズクの生産目標が2200トンです。推移は、平成25年が843トン、平成30年が693トン、令和5年が

1302トンです。アーサの生産目標は70トン。推移は、平成30年が36トン、令和5年が43トンです。

質 生産量減の要因を伺う。

答 農林水産課長（平安名 盛常）

海ぶどうは、養殖の競争激化や生育不良の発生、さらに養殖水槽の劣化による稼働停止水槽の増加が挙げられます。モズク、アーサの生産量は、気候の変動により海水温の変化や日照時間に左右されることが、生産量増減の主な要因と考えられます。

質 生産量増加の対応を伺う。

答 農林水産課長（平安名 盛常）

海ぶどうの生育不良の原因究明や老朽化した施設の改修が必要と考えています。モズクは、気候変動による海水温の変化に対して影響されにくい種苗の選定など、生産量の安定化を図ります。アーサは、定期的に沈砂池の清掃等を行う必要があると考えています。

質 海ぶどう養殖水槽の劣化の対応を伺う。

答 農林水産課長（平安名 盛常）

真栄田漁港の施設は、経年劣化が原因で稼働を停止している水槽が15槽あります。生産拡大を図るために、養殖施設の改修は必要と認識しています。水産業奨励補助金での改修が可能か検討します。



▲破損した水槽

畜産業について

質 畜産業の種類別生産量を伺う。

答 農林水産課長（平安名 盛常）

肉用牛の繁殖農家は、子牛出荷数が年間2頭から41頭の規模です。養豚は、約180頭規模です。ブロイラーは、出荷羽数8千羽から20万羽規模です。

質 鶏糞、牛糞などの再利用が必要と思うが、考えを伺う。

答 農林水産課長（平安名 盛常）

鶏糞や牛糞などの再利用を図るうえで、近隣市町村との情報交換を行いました。その結果、鶏糞の引受けを希望する事業者とブロイラー団地組合員との意見交換の場を設ける方向で、現在調整を進めています。

障がい者福祉について

質 障害年金の受給者数を伺う。

答 村民課長（山城 達也）

社会保険等に加入されていた方で30人、国民年金に加入されていた方で59人、合計289人です。

質 障害年金周知の取り組みを伺う。

答 村民課長（山城 達也）

障害年金の周知は、国民年金の加入期間や納付要件を満たした方が対象となるため、第6次総合計画では高齢者福祉の推進で国民年金制度の一部として行われています。障害年金に絞った形での周知は行っていません。

恩納村定員管理計画について

質 第2次定員管理計画策定に向けて、その進捗と令和7年度の予算組みに対する考えを伺う。

答 総務課長（宮平 寛）

たたき台作成後に、2月をめどに課長会議に提案というスケジュールです。予算組みは、人事異動に伴う予算として、令和7年の6月定例議会に補正予算として提案する予定です。

答 建設課長（當山 国博）

集積された軽石については、恩納村として活用する計画はありませんが、事業者が土壌改良材としての活用、観葉植物の土壌としての活用を予定していると同じました。なお、農家から提供依頼があれば無償譲渡をしていただくよう、お願いもしています。

提 実際にこの現状を分らない農家がたくさんいると思います。農林水産課とも連携しながら、農家に積極的にアプローチをしていただいて、この軽石に関して村内で有効活用できればと考えています。ぜひ取り組んでいただきたい。

海浜の堆積する砂の特区指定等による陸上運搬について

質 村内において、潮の流れ等によって砂が堆積する場所と流出する場所があります。現状において、各海浜を使用する地域住民及び事業者等から、堆積する砂及び流出する砂の陸上運搬についての要望をいただいています。砂が堆積する場所は、砂が積もり過ぎて困っている。一方、砂が流出する場所においては、その都度、砂を業者から搬入しているのが現状です。この非効率的な現状に対して、何かしらの

答 建設課長（當山 国博）
恩納村の公共海岸は、海岸法に基づく恩納村海岸管理条例や自然公園法、岩礁破碎申請と複数の行政手続により、海岸保全や景観維持が保たれていると考えています。砂の採取や陸上運搬については、現状の行政手続で申請していただき、自然公園法や岩礁破碎申請の許可条件や、地域住民、漁業組合の意見も取り入れ、慎重に判断していきたいと考えています。

提 具体的な例として、海浜公園の近隣のホテルの人工ビーチで入れた砂が潮の流れによって海浜公園のビーチのほうに流れ着いてくる。その流れ着いた砂が今、山のようになっている現状があります。これが景観の維持なのかという部分も私としては疑問視する部分でもあります。元々の景観は、この砂が堆積して山になっている。景観ではなかったと思います。景観を維持する目的であれば、許可申請等を踏まえれば、許可される体制づくりが今後必要だと思うので、しっかり取り組んでいただきたい。

認定こども園への移行及び民営化の推進において考えられる課題と今後の方針について

質 幼稚園の休園及び廃園に伴い、今後は認定こども園と一部の保育所のみが5歳児の受入れを行うことが想定されます。それに伴い、保護者に対して送迎等の負担が大きくなると思われます。実際に一部の保護者から、「送迎バス等が出るのか」、「送迎バスが出れば助かる」といった声があります。基本方針にある、全ての子供の最善の利益の実現と同時に、全ての保護者に平等で公平な子育て環境の整備も必要だと考えますが、今後の認定こども園への移行及び民営化の推進に伴う、送迎バス等の導入による子育て環境の整備に対する執行部の見解を伺う。



宮崎 匠 議員

恩納通信所跡地の軽石の活用について

質 現在、恩納通信所跡地の一角にて、約3千立米の軽石が保管されていると伺いました。この軽石については、行政が軽石漂着時に回収し保管のためにその場所へ集積させたと聞いていますが、この大量の軽石を今後どのように活用しているかと考えているのか、執行部の見解を伺う。

答 福祉課長（石川 司）

令和8年度から開園する認定こども園への送迎において、保育送迎ステーション方式で検討中です。この方式は、3歳児以上の園児を対象に、例えば村内であれば山田保育所、仲泊オーリーブ保育園などをステーションとし、保護者がステーションまで送迎し、その場所で一時的に預かり、希望する認定こども園へ送迎するという流れで協議・調整を行っています。村の地理的環境を考えると送迎バスは必要と考えています。令和8年度こども園開園後においても、引き続き各種子育て支援の取り組みを進めていきます。教育、保育の向上を図ることで、全ての保護者に平等で公平な子育て環境の整備を提供できると考えています。